

今日のみことば

□ 6月25日(日) 黙示録 5章

ここでは小羊であり贖い主である主の幻が示され、四つの生き物と長老たちとみ使いたちが、小羊を礼拝する光景が述べられている。

□ 6月26日(月) 黙示録 6章

いよいよ七つの封印が、小羊により一つずつ解かれていく。そして種々の災害が起こる。そして七つの封印が解かれるとさらに七つのラッパの幻へと発展する。

□ 6月27日(火) 黙示録 7章

第6の封印と第7の封印の間に挿入されたこの章は、第6の封印の一部で、選ばれた者たちの幸いな運命が、この世の恐ろしい運命と対比されている。

□ 6月28日(水) 黙示録 8章

いよいよ最後の第7の封印が解かれ、七つのラッパを吹きながら準備がなされる。七つの封印の裁きのように、七つのラッパの裁きが明らかにされるが、まだ終わりではない。

□ 6月29日(木) 黙示録 9章

前章の第1から第4のラッパの災いは直接に人を打つものではなかったが、この第5、第6の災いは、人を打ち、苦しめる災いである。

□ 6月30日(金) 黙示録 10章

第6と第7のラッパの間にも挿入部分がある。神のご計画は人間の予想としばしば異なる。神が人々に悔い改める機会を備えられる。

□ 7月1日(土) 黙示録 11章

第7のラッパが吹き鳴らされる前に示された幻は、二人の証人が現れ、獣と戦う幻である。証人が獣に食い殺されるが、神の力により生き返らされ、最終的勝利を与えられる。

ろ ば No. 1821

2017年 6月25日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

一テモテ1:12

あなたは、年が若いということ、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。

パウロがテモテに「これらのことを兄弟たちに教えるならば、あなたは、信仰の言葉とあなたが守ってきた善い教えの言葉とに養われて、キリスト・イエスの立派な奉仕者になります」と言った言葉を私たちはしっかりと聞かせていただくのです。私は今日生きる社会の中で、どれほど神さまへの信頼が欠けているかを思い知らされています。特に信仰者の私たちに問われていることでもあります。これらの言葉とは何ですか。パウロが「神がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはない」といいました。この言葉にしっかりと生きていますか。私はいつもこのパウロの言葉にひっかるんです。不平不満が出てくると

き、どれほどみ言葉が身に着いているかを問われるのでした。私はそこで、これが弱い人間の現実なんだと言いつくすことですが、そこを神さまは突いておいでになります。そのためにこそ御子イエスが十字架にかかられたのではなかったかと。

パウロがテモテに「イエスの立派な奉仕者となります」と言う言葉を聞きながら、私は自分はいかにみ言葉に養われた日々を過ごしているかを思うことでした。私は、三位一体後主日をどのように信仰生活の大事なこととして受け止めているかを考えるのです。聖霊降臨祭以後、三位一体の主は、日々私たちと共においでです。「生きてるのは、もはやわたしではありま

せん。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20)とパウロは言いました。主と共に歩む私たちには、いかなることが起ころうとも、「信じる人々の救い主である生ける神に希望を置いているからである」といわれる通りです。私はパウロが若い伝道者テモテが臆することなく、大胆にみ言葉を語るために必要な訓練について語るのを聞く時、それは私たちに告げられる言葉として聞かせていただくのでした。

そこにはパウロの大きな期待があります。それは「イエス・キリストの奉仕者」となることでした。パウロの後継者としてのテモテではありません。教会に仕える奉仕者としてテモテが求められているわけではありません。イエス・キリストに仕える奉仕者です。私たちは「キリスト・イエスのしもべ」と自らを自己紹介するパウロの言葉を覚えています。それこそが私たちが求められているものです。

戦火に焼かれた町のカトリック教会で、教会堂の再建がいち早く始まった。瓦礫と化した会堂をとりこわして片付けていると、両方の手首を失ったイエス像がでてきた。やがて新会堂が完成したとき、新しくイエス像をたてようという話がでた。だがある人が、両手を失ったイエス像を保存してあることを思い出して持ってきた。人びとはこのいたわしいイエス像を見つめていたが、結局、それをそのまま用いることにした。そして、台座にこう刻んだ。「イエスは手を持ちたまわない。けれども、イエスは私たちの手を持ちたもう」と。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
出エジプト3:1-14 思いもよらない神の出来事

神がなさることは、私たちの思いを越えています。ミデアンの荒野の奥で、モーセは意外な光景に出くわします。柴は燃えているの柴は燃えつきない。彼はなぜ燃えつきてしまわないの知ろうと思った。モーセがそこへやってくると、主は柴の中から語られた。主は耳を傾けようとすれものでなければお語りにはなりません。

神はご自身を明らかにして、モーセに神のご計画とモーセの役割について告げられました。燃える柴は神のご臨在のしるしでした。40年の荒野で試練を通して多くのことを学んだモーセは、かつては主からの召しに尻込みをしたことでしたが、いまも主の信任状を求めることでしたが、主はそれに応えられました。神はモーセにご自分の名を啓示されました。わたしこそ真の存在の根源である。このわたしが、あなたを遣わすといわれるのでした。



Read God's Word.